

誤った情報がもたらす悲喜劇



1937年8月に、日本の政府広報誌に載った「毛沢東」のトンデモ写真。日中戦争時、日本は敵の顔も知らずに戦っていたのだろうか

長い歴史を誇る人文研の中国学研究だが、近現代を扱うようになったのは、比較的近年のことである。近代史の共同研究班が発足したのが1966年、現代中国を重点的に研究する「現代中国研究センター」(現中研)が設けられたのは、2007年である。日本では、戦後のある時期まで、中国近代史、つまり清朝末期以降の歴史は学術研究の範囲外とされた。極端な話、20世紀中国は学

うなれば、卓球で中国代表に試合を挑むようなものなのだ。こちらが必死に練習して奇策を繰り出しても、すべて対応され完敗、試合後に向こうが「ナイスゲーム」といつて握手してくれる、とまあ、そんなところだ。

京大人文研 90年の学知

(9)

石川禎浩
(中国現代史)



いしかわ・よしひろ 1963年山形県生まれ。90年、京都大学文学研究科修士課程を修了し、京都大学人文学科研究助手に就任。現在、同研究所教授、付属現代中国研究センター長。博士(文学)。著書に『赤い星は如何にして昇ったか――知られる毛沢東の初期イメージ』(臨川書店)など。

術の問題ではなく、国策の対象であつたと言つてよい。京大とて同様で、古典学者や歴史家が相手にする中国は、近代化以前の中国だった。

今や現代中国研究の重要性に疑問を挟む者はいない。とはいって、『現中研』は専任教員3人の小組織に過ぎず、これで14億の民、9千万の共産党員を有する中国を相手にすると

は無謀もいいところ。おまけに向こ

うさんの持つてある資料は膨大で、

かつガードも堅いとあっては、本家

中国の優位性は明らかである。例え

ば、中国共産党についての研究、わ

れわれが新事実の発見だと喜んで発

表しても、向こうの党の歴史家は先

刻承知で、「外国人にしては、よく

やつているね」とお褒めの言葉を頂

戴するのが関の山だつたりする。言

うなれば、卓球で中国代表に試合を

挑むようなものなのだ。こちらが必

死に練習して奇策を繰り出しても、

すべて対応され完敗、試合後に向

こうが「ナイスゲーム」といつて握

手してくれる、とまあ、そんなところだ。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは

日中戦争勃発直後の1937年8月

に、日本の政府広報誌に載った「毛

沢東」の写真なのだが、どう見ても

別人である。最初に見たときは、わ

たしも笑つた。おかしそうだ。だが、

同時に思ったのだ、「そうか、米人

記者のエドガー・スノーが1937

年末に『中国の赤い星』という取材

記ではじめて生の写真を出すまで、

毛は謎の人物だったのだ。だから、

時にこんなトンデモ写真が出ても不思議ではないのか」と。

では、どうしたらいのか。昨年

まで4年にわたって実施した「毛沢東」に関する共同研究班が一つの答

えである。例えば上の写真、これは